

# 富山県内水面漁場管理委員会議事録

## 1 開催の日時及び場所

日時 令和5年2月21日(火) 午後2時から午後2時40分  
場所 富山県民会館707号室

## 2 出席委員

田中篤人、笠井廣志、中田眞一郎、東 秀一、堀井律子、角眞光彦、中田礼子  
(欠席委員：山本勝徳)

## 3 議長

富山県内水面漁場管理委員会 会長 田中篤人

## 4 委員会の成立

定員の過半数の委員が出席していることから、漁業法第145条第1項及び第173条の規定に基づき、当委員会は成立。

## 5 議事録署名委員の指名

中田眞一郎、堀井律子

## 6 県職員等

水産漁港課 矢野課長、小善副主幹、川口主任

## 7 事務局職員

辻本事務局長

## 8 付議事項(議題)

### (1) 令和5年度増殖目標量の委員会指示について(協議)

水産漁港課の川口主任から資料1-1により説明があった。

令和4年度増殖目標量の委員会指示に対する増殖実績について、令和5年2月に第5種漁業権を持っているすべての漁協に対してヒアリングを実施した。その結果、ほぼすべての魚種で委員会指示に対し問題なく増殖が実施されていた。一部例外として、内共第11号井田川の婦負漁協の管轄において、サクラマス親魚の汲み上げ放流を20尾以上としているが、15尾で目標尾数に達しなかった。代替措置として、サクラマス稚魚2.5kg分を購入して放流する予定としている。コイについては、コイヘルペスウイルス病まん延防止の観点から、呉東内水面漁協、中新川内水面漁協、白岩川南部漁協、富山漁協、婦負漁協では、

放流を見合わせた。漁業権区域における外来魚の生息状況については、神通川、庄川、白岩川では外来魚の生息が確認された。その他の河川では生息がないか不明である。白岩川では、オオクチバスの生息が新たに確認されたが、生息量や被害状況は不明である。神通川水系では、オオクチバス、コクチバス、ブラウトラウト、ニジマス、ブルーギルの生息が認められ、フナやアユの食害が確認された。庄川ではオオクチバス、コクチバス、ブラウトラウトが見られたが、生息量や被害状況は不明である。神通川では富山漁協では外来魚採捕の知事許可により、捕獲が実施された。

辻本事務局長から、資料1-2により説明があった。

令和5年度増殖目標量については、令和4年度の実績で説明したとおり増殖目標量に変更はないので、記載のとおり放流・増殖を行っていただきたい。稚魚の放流に限らず、モクズガニ産卵親ガニの汲み下ろし放流やサクラマス親魚の汲み上げ放流、ウグイの産卵床造成なども増殖と認めている。コイの増殖については放流尾数が記載されているが、コイヘルペスウイルス病のまん延が問題となっているため中止や尾数の削減も可能である。コイが中国由来の外来魚とされることやコイが水草を捕食してしまうという被害も聞かれることから、次の漁業権切り替え時には、増殖目標量を検討する必要がある。

委員からの質問等はなく、令和5年度増殖目標量について採決の結果、全会一致で異議なしとされ、資料1-2の委員会指示案のとおり指示を発出することとなった。

## (2) 神通川水系熊野川における水産動物採捕規制の委員会指示について（協議）

水産漁港課の川口主任から資料2-1に基づいて説明があった。

神通川水系熊野川の上流域は、サクラマス等の産卵場が確認されており、資源保護のため漁業権者である富山漁協により禁漁区等の採捕制限が設けられている。2ページ目の表1に、熊野川における富山漁協の行使規則および遊漁規則による採捕制限をまとめている。また、当該区域においては、魚道を整備するなど、積極的な資源保護の取組が行われている。しかしながら、小俣橋下流端から熊野川ダム下流端までの区域においては、富山漁協の遊漁規則等でアユやサクラマス等の漁業権魚種の採捕は制限されているが、漁業権魚種以外の魚種は採捕することが可能であるため、漁業権者と遊漁者等とのトラブルが懸念される。このことから、同区域において水産動物の採捕を制限する委員会指示が、平成20年4月から継続されているところであるが、現在の委員会指示は、令和5年3月31日をもって終了する。については、本指示を継続することを協議する。

田中会長から、当区域において遊漁者とのトラブルは発生しているか質問があった。

富山漁協の東委員から、トラブルは確認されていない。ただし、川に降りら

れる道がないため、釣りをしたい人は川沿いに上がっていくしかなく、監視の仕様がなない。

辻本事務局長から、当区域のサクラマス遡上と放流の状況について質問があった。

東委員から、年にもよるが、昨年からサクラマス親魚は極端に少ない状況にあり、今年も少なかった。富山漁協では、親魚が確保されれば、サクラマス幼魚 10~20 万尾を小俣橋より上流で放流している。

このほか委員からの質問等はなく、神通川水系熊野川における水産動物採捕規制の委員会指示について採決の結果、全会一致で異議なしとされ、資料 2-2 の委員会指示案のとおり指示を発出することとなった。

### (3) 秋サケ来遊実績について (情報提供)

県水産漁港課の川口主任から、資料 3 に基づき「秋サケ来遊実績」について説明があった。

全国的なサケ来遊尾数の減少により、本年度の県内沿岸におけるサケ漁獲尾数は 2,451 尾で過去 10 年平均比の 15%、河川におけるサケ捕獲尾数は 10,909 尾で平年比 26%であった。本年度のサケ来遊尾数については、平成以降最低であった昨年度の実績をさらに下回るという大変厳しい結果となった。全国のサケの沿岸漁獲と河川の捕獲を累計した来遊実績については、太平洋側では、北海道は前年比 181%、本州では 145%であった。日本海側では、北海道は前年比 177%、富山県を含めた本州は前年比 153%であった。北海道では過去 10 年平均を 2 割以上上回ったものの、本州では特に南の方に位置する県ほど厳しい状況が依然として継続している。全国における資源状況の悪化の理由については、国の研究所などから稚魚の降海直後の高水温や海流変化による回遊経路の変化が指摘されているが、はっきりとした原因は分からないと伺っている。最後に、本県における今年度のサケ稚魚の放流尾数は、県内 6 漁協の合計で 864 万尾を見込んでいる。この数字は、昨年比で 104%、平年比で 50%となる。サケ捕獲尾数の減少により、県全体における採卵実績が当初の買上計画を下回る状況となり、一部漁協においては、不足分を補うために秋田県から種卵の提供を受けている。現在のところ、稚魚の飼育管理は順調に取り組んでいただいております、既に放流も始まっている。稚魚放流は、2 月上旬から 3 月中旬にかけて実施する予定となっている。

東委員から、サケも極端に減少しているが、サクラマスのそ上も極端に減ってきている。北の海の海水温が影響しているのかとの質問があった。

辻本事務局長から、北の海だけに限らず、富山湾でも 1953 年の統計から 1~2℃上昇している。サケやサクラマスの降海直後の春の水温も高くなっており、生残に影響していると考えられる。オホーツク海やベーリング海も温暖化の影響が現れていて、餌となる動物プランクトンの生産が減っていて、生残、成長

に影響している。

小善副主幹から、暖流と寒流のバランスが崩れてきていて、2014年から2015年にかけて区切りがあるとされており、温かい側にシフトし、この傾向はしばらく継続すると見込まれている。気象庁のホームページ「海の健康診断」により対馬暖流の拡散範囲を閲覧できるので参考にしてほしいとの補足がなされた。

東委員から、サクラマスの上上が減ってきており、婦負漁協では親魚の汲み上げ義務放流20尾に対して15尾しか捕れず、足りない5尾分をサクラマス稚魚で放流しなさいというのはちょっと酷なのではないか。資源が減ってきているときには、稚魚で補ってサクラマス資源を維持しなさいという指示ということかとの質問があった。

辻本事務局長から、漁業権を付与しているので義務付けているが、この状況が長期的に続くのであれば、次の漁業権で見直さないといけない。放流する稚魚も天然資源に依存できなくなる可能性もあり、池産系で補うことができるかも検討していかなければならない。

中田眞一郎委員から、内水漁連から、河川でのサケの捕獲は、富山県、石川県、茨城県では少なかったと聞いている。富山県の6漁協では、河川にそ上しているサケもたくさんみられたが、採捕する漁業者が高齢化し、庄川ではヤナを中止したため一気に減少した。朝日内水面漁協と黒部川内水面漁協ではサケ採捕を共同で行ってカバーしている。北海道では自然産卵方式の方が、より回帰が良く、川にそ上させるとの方向も最近みられる。そういう観点から富山県の河川においてもどのような方法がよいのか検討すべきである。サクラマスにおいても過去最低であったが、3年状況をみたらうえで義務放流量などを検討してはどうかとの意見が述べられた。

辻本事務局長から、サケとサクラマスは将来的に厳しい状況にあると認識している。義務放流量は、河川規模に応じて定められているが、そこに掛かった経費をもとに漁協は遊漁料や行使料を定めているので、収支バランスもみたらうえで協議したいと回答された。

この他、委員から質問、意見等はなかった。

#### (4) その他

特になし。

#### (5) 次回の委員会の日程について

次回の委員会を、令和5年5月24日(水)13時30分から開催することを申し合わせ、散会した。

以上のとおり、相違ないことを証するため署名する。

令和5年2月21日

議長

---

署名委員

---

署名委員

---